

令和4年度第2回会津若松市総合教育会議 議事録

- 1 日 時 令和5年1月19日(木)
開会 午前10時15分 閉会 午前11時40分
- 2 場 所 會津稽古堂 研修室2
- 3 出席者 市長 室井 照平
教育長 寺木 誠伸
委員 林 健幸
委員 秋山 理恵
委員 田中 裕志
委員 秋 月 淳子
- 4 事務局出席者 教育部長 佐藤 哲也
副部長兼教育総務課長 山口 勝彦
生涯学習総合センター所長 富樫 明俊
学校教育課長 安齋 敦
// 学校保健給食室長 齋藤 洋子
スポーツ推進課長 吉川 加代子
教育総務課副主幹 山内 斉
// 副主幹 小檜山 智晶
学校教育課総務主幹兼指導主事 伊達 東
// 主幹兼指導主事 佐藤 仁
// 学校保健給食室主幹 竹田 真希
スポーツ推進課主幹 岩橋 健紀
生涯学習総合センター主幹 小川 款
// 主任主査・社会教育主事 梅宮 朋葉

- 5 協議題 (1) 部活動の地域移行に向けた取り組みについて
(2) 新学校給食センター整備事業について
(3) 地域学校協働本部事業について
(4) その他

6 議事の概要

○開 会

○会津若松市長あいさつ

○議事録署名人 林健幸委員、秋山理恵委員を指名

○協議内容

<議長：室井市長> 本日の協議題は、次第にございますとおり「部活動の地域移行に向けた取り組みについて」をはじめ3件について、ご意見等をお聞かせいただければと考えております。

それでは「部活動の地域移行に向けた取り組みについて」事務局から説明をお願いします。

<事務局> 「部活動の地域移行に向けた取り組みについて」説明

<議長：室井市長> ただ今、部活動の地域移行に向けた取組について事務局より説明がありました。

部活動については、少子化の進展により従前と同様の体制で運営することが難しくなっており、持続可能な活動環境の整備が求められています。

前回の本会議では、運動部活動の地域移行に向けた取組を中心にご協議いただきましたが、今回は文化部活動の取組についてもご意見等を頂戴できればと考えております。

それぞれ時間を区切って協議してまいりたいと存じますが、まず、運動部活動の取組についてご意見、ご質問などありましたら発言をお願いいたします。

<林委員> 実施主体となる地域の団体数は16団体とのことですが、その数は減らさない、もしくは、新規スポーツが出てきた場合は増やす考えはあるのでしょうか。

<事務局> 団体は16団体ですが、部活動としては14の部活動で週末合同練習会を行う予定であります。今後、新たなスポーツが出てくるところもございますが、当分の間は現在行っている部活動について週末合同練習会を行う予定であります。

<林委員> 週末合同練習会ですが、学校によって期末テストや中間テストの期間が違う場合、合同練習会に参加できる学校とできない学校が出てくるかと思えます。そういった場合は日程を調整する考えなのでしょうか。

<事務局> 年度当初に各学校の先生方と運営団体で練習スケジュールを組む予定であります。途中で状況が変わったりすることもあるかと思えますが、柔軟に対応してまいりたいと考えております。

<田中委員> 資料4 ページに、令和8年度4月の完全移行に向けてと文言がありますが、完全移行の具体的なイメージをもう少し教えていただけますでしょうか。

<事務局> 地域移行を簡単に申しますと、学校の先生方が週末の部活動に携わらなくなるということです。希望する先生方については、先生の立場ではなく、各連盟に所属していただいたりとか、兼職兼業届を出していただきながら関わっていただく予定ではおりますが、基本的に先生方は部活動から離れて、地域の方々に運営や指導を行っていただくことが完全移行となります。

<田中委員> そうしますと、生徒は1週間毎日部活の機会があるということなのでしょうか。

<事務局> 中学校の部活動につきましては、基本的なガイドライン等がありまして、平日の部活動は4日間で1日は休養日とし、休日も基本的には1日が休養日となっております。

<秋山委員> 例えば週末に大会がある場合、学校の先生が引率せずに地域の指導者が子ども達を連れていくようになるのでしょうか。

<事務局> 大会等につきましては、各学校単体で出場する場合は各学校での引率となりまして、合同チームの場合は合同チームの先生方が引率することになります。

<秋山委員> 令和8年4月からの完全移行後もそのような形なのでしょうか。

<事務局> 学校教育に関わる大会については平日に開催されますので、学校で引率し

ますが、週末の大会については様々でして、各種団体が主催するような大会もありますので、状況に応じて変わってくるかと思えます。

<秋月委員> 会津若松市の移行方針として、部活動への参加費は無償とすることになっていますが、費用負担については心配される保護者が多いと思えますので、大変だと思えますが是非進めていただきたいです。それから、私の周りには週末合同練習会が始まって、自分がやりたかった、あるいは子どもにやらせたかったスポーツを諦めなくて良かったとの意見が多いのですが、小学校でのアンケート結果などはどのようになっていますでしょうか。

<事務局> きちんとしたアンケート調査は実施しておりませんが、中学校での部活動をどうするかについて学校単位で小学校に聞いたりしているところはございます。子ども達の選択肢をなくさないことが一番ですので、中学校には、部員が少なくても部活動を残してもらって、入りたい部活動がある状態で入学できるような体系作りを行っているところであります。

<秋山委員> 少子化に伴って部員が少なくなっているために地域移行の取組を進めていらっしゃるかと思えますが、週末合同練習でも部員が集まらない種目も出てくるかと想像できます。その場合はどのようにお考えでしょうか。

<事務局> 子ども達のスポーツ体験の場を確保するという視点では、大会に出て勝つ喜びなどを主な目的とするならば、厳しい状況ではあるのかなと思えますが、その先、例えば高校や大人になってからスポーツを楽しみたいという入口としては、できる限り残しておきたいと考えております。

<林委員> 保護者の方は送迎協力をすることとなっておりますが、市内中心部から離れているところの保護者の方に負担がかかってくる恐れがあるかと思えます。それから、少人数学校は今でさえ部活の数が少ない学校がありますが、そういった子ども達に選択の幅を広げていただけるように要望します。

<議長：室井市長> いろいろな種目がありますが、参加者を募る際は事務局で声を掛けるのか、学校で取りまとめするのか、会場をどのように調整するのか、その辺のイメージをお聞かせください。

<事務局> 基本的に教育委員会が運営団体となりますので、教育委員会から各学校に声掛けをして合同練習会に参加する子ども達を募る予定でおります。その後の調整につきましては、できれば総括コーディネーターやコーディネーターを配置しながら調整していければと考えております。

<議長：室井市長> もう一点ですが、中学校くらいになると、大会の際に飲み物の差し入れなどするために、若干の保護者会費などを集めているところがあるような気がするのですが、従来通り会費を集めたり運用することは問題ないのでしょうか。

<事務局> 平日の部活動もございますので、今まで通りと考えております。

<議長：室井市長> 教育長、何かございますか。

<教育長> 林委員よりご質問がありました、市内中心部から離れた学校の送迎協力につきましては、例えば大戸中ですと卓球部しかありませんので、大戸中には卓球の指導者を週末に一人派遣する考えです。湊中からは合同練習会に参加したいという意見や、保護者の方が送迎するという意見も出ているところですが、調整の結果、

単独で練習するので、指導者の派遣をお願いしたいとなれば、週末はそこで練習するようにします。現在、北会津がその形です。そうならば交通的な格差は大きくはないものと考えます。また、自転車の場合でも遠い練習会場があると思いますので、年間計画の中で会場をローテーションしていくと不平等感はなくなっていくものと考えております。

それから、参加者の募り方ですが、部活動なのでそのままやっていただく考えです。週末に硬式野球部などに入っている子どもは今まで通りですし、会場の確保についても、先程ありましたように、全体を取り仕切るコーディネーターが各競技の合同練習会の会場の確保と合わせて調整をする予定であり、何とか計画通りに実施できればと考えております。

現在、各競技団体への説明なども進んできましたが、地域の方々からは指導者は出せないなど否定的な意見はございません。一緒に中学生を育てることで高校の部活動の衰退もストップできるという意見もございました。実際、地域スポーツがなくなるかどうかの大きな土台ですので、その点なども説明しながら進めているところです。以上です。

<議長：室井市長> それでは、続いて文化部活動の取組についてご意見、ご質問などありましたら発言をお願いいたします。

<田中委員> 運動部も同じだと思いますが、経費は公費で賄うとのことですが、謝金ですとか保険とか、どの程度の予算の増額が予定されるのでしょうか。

<事務局> 運動部の謝金については1時間1,000円程度と考えております。土曜日と日曜日については最大で3時間までということで、子ども達の体のことを考えて時間を設定しております。合わせまして、運営を仕切っていただく方についても同じ形で考えております。総額ですと年間1,500万円程度ですが、移行期に向けて国で補助メニューを設けていますので、市からは実質500万円超の持ち出しとなる見込みです。

<田中委員> 国の補助がなくなっても公費負担は継続する考えなのでしょうか。

<事務局> 今後、調整等がございまして、可能であればというところがございます。

<秋山委員> 指導者の確保が大きな課題となっていますが、今のところ目途はあるのでしょうか。

<事務局> 文化部は今のところ見通しが立っておりません。現在、指導にあたっている先生方に退職後に地域の指導者になっていただければいいのですが、退職年齢が65歳まで延長になると、ますます現役の先生方に担っていただくのは難しい状況になってきますので、地域で活動されている方から探していくのは難しいところです。

<秋山委員> そこが一番の課題というところでしょうか。市内でも、合唱や吹奏楽の団体があるかと思えますし、コンピュータでしたら会津大学ですとかいろいろあるかと思えますので、指導者の確保というところが一番大きな課題であれば、早く動いた方がいいかと思えます。

<秋月委員> 週末に限らず、合唱や合奏で大会前など合同練習を行っている学校はあるのでしょうか。

<事務局> 課題曲についての研修ですとか、そこに向けて合同で練習したりすることはあります。吹奏楽ですと、楽器別に講習会として集まって行っているところがあ

ります。

<秋月委員> 部活動として行われているところはないのですね。

<事務局> おっしゃる通りでございます。

<林委員> 運動部は令和8年度の完全移行を目標にされていますが、文化部はいつ頃までに移行する予定なのかということ、指導者について、中心部の学校には人材がいても、周辺の学校には誰もいないということがあるかと思imasので、掘り起こしができないのかなと思imasますが、いかがでしょうか。

<事務局> 現在、部活動連絡協議会を立ち上げて、代表の方々を交えて話し合いをしているところでして、運動部は令和5年度からスタートしますが、文化部については、時期についても今後、検討しながらというところです。指導者についても今後検討してまいります。

<田中委員> イメージなのですが、合唱や吹奏楽は、各学校の先生や生徒の熱の入れようによってだいぶ温度差があるのではないかという気がします。いくら週末だけとは言え、一緒にやることに対して教員や保護者、生徒から拒否反応のようなものはないのでしょうか。

<事務局> おっしゃる通りでございますが、そこは音楽活動については大きなハードルの一つであるものと思っております。あくまでも想定でございますが、実際に今後、合同練習になれば拒否反応を起こす方もいらっしゃるのではないかと思っております。

<田中委員> それに対する対策は今のところは考えていらっしゃいますか。

<事務局> 最終的には子ども達にとってどうなのかというところで考えておりますので、子ども達にとって一番いい方法を前提として、保護者の方々にご理解いただければと思っております。

<田中委員> 例えばレベル分けとかパート分けとか、いろいろな方法を考えられるのでしょうか。

<事務局> 田中委員がおっしゃったように、合唱ではパートごとにですとか、吹奏楽では場所や大きな楽器の移動が伴うためなかなか難しいところがありますが、専門的な技術を高めるような練習会を行うですとか、いろいろな意見が出ているところであります。

<議長：室井市長> それでは、教育長、何かございますか。

<教育長> 文化部の移行時期ですが、運動部活動の地域移行は3年前から国で言われてきましたが、文化部は今年になって急に運動部と同じ期間で移行するよう国から出ました。全国的にどこの自治体もそのスケジュールでの移行は難しいと思imas。ですから、文化部については何かしらスタートするのがこの3年間の目標であると思imas。例えば中学校の文化部は、資料を見ていただくとわかりますが、人数が減って、吹奏楽も大編成で大会に出れる学校がなくなっていますし、合唱も特設でしかコンクールに出場することできない学校が多くなっています。廃部させないためには合同でやっていくしかない状況です。

現在、県大会、東北大会、全国大会が中学校同士の合同での出場をどこまで認め

ていくか検討に入っており、その結果次第になる部分もございますが、基本的に市としては、中学校同士の合同を組んで維持していくのか、中学校区で小学生との合同練習をしながら将来に向けての文化活動の繋がりを考えるのか。そうなるコンクールを特に意識しないで、地域として小中学生で器楽、吹奏楽のチームを作って楽しく演奏していこうとの考え方も出てくると思うので、こういったことも含めて、実際に取り組むアイデアを部活動連絡協議会のメンバーで練っていただいているところです。

少しでも何かしらの形でスタートできるよう急ぎますが、全部を一気に進めるには運動部よりは遅れるスケジュールだと考えております。今のままですと、吹奏楽コンクールに出れる学校が少なくなり、場所もなくなるという非常に厳しい状況に陥っております。以上です。

<議長：室井市長> それでは、次の協議題「新学校給食センター整備事業について」に移ります。事務局より説明をお願いします。

<事務局> 「新学校給食センター整備事業について」説明

<議長：室井市長> 新学校給食センター整備事業について事務局より説明がありました。

本市の給食施設の多くが昭和から平成初期に建設した施設であり、老朽化が深刻な状況となっておりますことから、新たな学校給食センターの整備について検討を開始したところでありますが、整備の方針等についてご意見、ご質問などありましたら発言をお願いいたします。

<田中委員> 給食センターの建設に伴って給食費の値上げは考えておられますか。

<事務局> 給食費につきましては子ども達が食べる食材の経費ですので、給食センターの建設とは別物になります。建設費用は市が負担するものですので、保護者負担はございません。

<議長：室井市長> 給食センターの建設と調理・洗浄は公費で負担しておりまして、保護者が負担する給食費は食材料の購入費が中心となります。食材料の一部に公費が入っている場合もありますけれども。

<事務局> 食材料の公費負担としましては麺の補助を行っております。あくまで保護者の方に負担いただいているのは、子ども達が食べる食材費の部分になります。

<議長：室井市長> 地鶏や馬肉も市で負担していましたか。

<事務局> 市で負担しております。

<議長：室井市長> 教育長、何かございますか。

<教育長> 給食センターの整備にあたっては、例えば大規模な施設を2か所にすると、一方が停電などでストップした場合に市内の半分で給食がストップします。そういうこともできないので、この4か所という案が出てきました。検討を開始したばかりの案ですが、このくらいの期間で進めていかないと、老朽化が進んで非常に心配だということのスケジュールが組まれています。

私はこの分野に関しては素人として、給食センターは建築基準法上、工場に位置づけられるので、中心部に近い場所には建てられないという規制があるというのが、まず最初に驚いた難しい部分でした。今後、教育委員会として細かい部分を相談し

ながら検討し、前に進んでいかなければいけないと思っています。以上です。

<議長：室井市長> それでは、次の協議題「地域学校協働本部事業について」に移ります。事務局より説明をお願いします。

<事務局> 「地域学校協働本部事業について」説明

<議長：室井市長> 地域学校協働本部事業について事務局より説明がありました。
少子高齢化や地域とのつながりの減少による地域の教育力の低下などを背景に、学校が抱える課題が複雑で多様化する中、社会全体で子どもの成長を支えていくことが求められており、本市では、地域学校協働本部事業を進めております。令和3年度からは全ての市立学校で地域学校協働活動を開始するなど事業を拡大しているところでありますが、これまでの活動状況等について、ご意見、ご質問などありましたら発言をお願いいたします。

<林委員> 部活動も同じですが、地域の方々の手助けがなければ学校の運営が厳しい状況になってきているのかなと感じています。質問ですが、ボランティアの方々の年齢ですとか男性女性の比率がわかれば教えていただけますでしょうか。

<事務局> 詳しい数字が手元にないのでお答えできかねますが、定年された方などが多く、全体的に年齢層は高い状況です。男女比は同じくらいでして、ある程度時間の自由が利く方に参加していただいている状況です。

<林委員> 昨年に比べるとボランティアの数が微増とのことですので、できるだけ多くの方に参加いただけるように、学校を通じてお声掛けしていただけますようお願いいたします。

<秋山委員> ボランティアの方の募集はどのような方法でされているのでしょうか。

<事務局> 基本的に、コーディネーターの方に口コミで探していただいております。ほかに生涯学習総合センターでホームページに掲載したり、チラシを配付したりしております。今後もさらにPR方法を検討していく必要があるものと考えております。

<秋山委員> より多くの方に登録していただけるように窓口を広げていただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

<田中委員> この活動はいつからされているのでしょうか。それと、参画者の声が出ていますけれど、学校現場の率直な声はどのような感じなのか教えていただけますでしょうか。

<事務局> 協働活動として始まったのが湊地区が最初でして、平成28年度から実施しております。令和3年度から今のような市全体の活動になっております。
学校の声でございますが、学校からも大変好評をいただいております。協働活動事業のスタートが学校からのリクエストでして、こういうのをやってもらえると助かるというリクエストをコーディネーターに出していただいて、それをもとに活動しておりますので、一つ一つ大変助かっているという声をいただいております。また、地域の方と交流ができて子ども達にも大きな影響になるとの声や、先生方自身も勉強になるとの声もございます。さらに、例えば地域に伝わる伝統芸能ですか、なかなか学校では実施できないことも、地域の方にご協力いただければ詳しくできる部分もあって、今までできなかったことができるという意見もございました。

<田中委員> 質問の主旨は、教職員の方の負担があまりに増えすぎることになると、教員のなり手が少ないということもありますので、地域を含めて子ども達のためというところで、働くバランスなども考慮されているのかなということでお伺いしたのですが、そのようなお声を聞いて安心しました。

<秋月委員> 私は学校運営協議会委員をしております、この事業が始まって最初の頃は、現場の先生方は突然、外部の方が入ってきたという感じで戸惑われていたようです。ただ、年数を重ねて、信頼関係が築かれてきて、少しずつ受け入れていただいていると思います。成り手については、知り合いが知り合いに声を掛ける形になっているので、今後もう少し上手に広げていくことが運営委員会でも課題になっています。

<議長：室井市長> 他にございませんか。それでは、教育長、何かございますか。

<教育長> 本市の地域学校協働本部事業は非常に進んでおります。遅れているのはコロナの影響で学校が地域に開くといえますか、そういった学校の認識の方が遅れていたかなと思います。コロナ禍で感染の心配もあり、校長先生の考え方も様々でして、学校間の格差が非常に大きいものでした。最近は多くの方を受け入れる体制はやっとできてきたと思っております。

先に質問にありました地域の方の集め方ですが、私のところにいらした市民の方は、公民館の掲示板を見て参加したらすごく良かったとおっしゃっていました。私より高齢の女性の方でしたが、下学年にタブレットの使い方を教えるボランティアの募集を見て授業に参加したそうです。全く使い方がわからない子どもが何人かいて、教えるとすごく喜ばれて楽しかったと。自分ももっと難しい使い方を勉強したいとも思ったそうです。地域の方にとっても、この事業は生きがい作りにもなっているんだなと感じました。さらに内容を充実して広げていければと思います。ボランティアに登録すると縛られるので、登録はせずホームページや掲示を見て積極的に参加したいとの話もあったので、ボランティアの登録者を増やしていくことはなかなか簡単ではないかと思いますが、参加して下さる方は増えていくと思っています。

なお、学校運営そのものが地域の人が入らないとできなくなっているかという林委員のお話は、そうではなくて、教育の質が一気に変わって向上していく支援ですので、各学校でも努力をして新しい教育に対応するようにしていますが、地域の専門家が入ることによって質が一気に上がるので、本市の教育としては地域の人材をフルに活用できれば子ども達の力が付くかなと思っています。以上です。

<議長：室井市長> ありがとうございます。三つの議題が終了しましたが、最後に今回の総合教育会議についてのご感想や、あるいは、本市の教育行政についてのご意見等をおひとりずつお願いしたいと思います。林委員からお願いします。

<林委員> ここ数年感じているのは、少子高齢化が教育委員会の根底に出てきているのかなという気がいたします。市長はご努力なさっているのでもわかると思いますが、さらに少子高齢化の波は進んでいくものと思われまますので、それに対して一歩二歩先の見通しを立てて、学校運営をどうしていくかを考えていただければと思います。そして、子ども達や保護者、地域の方にわかりやすくアナウンスしていただければ、自分達がどのような形で市の教育に関わっていけばいいのかに対しての指針にもなるかと思っていますので、よろしくお願いします。

<田中委員> 初めて参加させていただきましたが、大きな課題について、こういった機会を与えていただきありがとうございます。何度か定例会やほかの会議に参加して、教育分野においてもお金の問題に行き着くところが多いとの感想を受けまし

た。予算が限られている中で、八方塞がりの状況になりかねないと思いますが、民間の活用もしていただく場面もこれから増えるのではないかなと思っております。教育特有の問題というか、守らなくてはいけない部分もあるかと思いますが、公と民間とのバランスを少し変えていく必要があるのではないかなと思いました。

<秋山委員> 自分がPTAなどに参加していた頃から、子どもは学校と保護者と地域で育てましょうという話がありました。今、このように問題がたくさんありますけれども、子ども達の健全な育成のためには、地域の力が大きく関わらなければならないと感じています。教育によいことはたくさんやっていきたいと思ひますし、市の方からもいろいろなことでもっとアナウンスしていただければと思ひます。

<秋月委員> コロナ禍で学校教育が大変な中の3年間だったと思ひます。子ども達の生活を守るためにもお互いが成長していけるよう考えていければと思ひております。

<議長：室井市長> 最後に教育長にまとめていただきたいと思ひますので、先に私から一言申し上げます。

現在、予算編成をやっておりまして、今回の部活動週末合同練習会についてはなんとか予算をつけたらと思ひております。他地域より先行して取り組んでいますので、よい事例となってアピールできるよう進めていきたいと思ひます。

それから、最近思っていることがございまして。会津若松市が選ばれるまちになるかどうかということです。いろいろなことで比較されます。教育力ですとか、人口規模というよりは、まちのよさとか。よそから人をたくさん呼んでくるだけではなく、ここで子どもが生み育てられて、このまちが持続可能になることが大事だと思ひております。その中で教育分野は非常に大きい内容であると思ひております。

それから、先日、市内の企業に勤務している東京の方から、こどもクラブは大変ありがたいとの話がありました。学校が終わった後に一定期間居場所があるので、安心して仕事ができると。本市にもよいところはあるんですが、そこをなかなかアピールし続けられないので、今後、発信をしていくといひますか、伝える努力をしていくことが選ばれるまちのいわれなのかと思ひております。先程、令和4年の出生数を確認してきましたら、残念ながら700人には届かないそうです。令和3年は720人でした。私はコロナの影響が大きいのではないかなと思ひておりますが、晩婚化であったり結婚しない方が多かったですので、これをどうするかはアナウンスしていく必要があると感じています。選ばれるまちというのは、会津で生まれ育った子供たちが会津を選んでくれることも大事なので、帰って来いよという声も出し続けたいと思ひます。本日は貴重なご意見ありました。

それでは、教育長お願いいたします。

<教育長> 今日は大変ありがとうございました。今ほど市長よりお話がありました通り、部活動の地域移行については全国のトップランナーになると思ひますので、そのつもりで準備を進めます。

それから、給食センターにつきましては、計画をみると長期のスケジュールであり、ルールに従って準備を進めるには、もうこの段階で進めていかないと間に合わないタイムスケジュールになっています。課題について一つ一つ整理しながら前に進みたいと思ひますので、またご意見等いただきたいと思ひます。

また、地域学校協働本部事業につきましては、実際に生涯学習総合センターと各公民館が非常に頑張っており取り組んでいます。この事業と学校運営協議会の両輪の動きというのは、県内でも一番本市が進んでいると思ひますが、さらに内容を充実していきたいと思ひます。やはり外側の形をしっかりと作って、見切り発車でもスタートして、その中をどんどん充実させていった方が、100パーセントだと思ひて地固めをしすぎて進めていって、また課題が出て同じなので、ある程度スタートできると思ったら一気にスタートして修正しながら前にいきたいと思ひます。今後も市長

のお力を全面的にお借りしながら、皆さんのお知恵を拝借して頑張っていきますので、よろしくお願いいたします。

<議長：室井市長> それでは、本日の全ての議題についての協議が終わりましたので、閉会といたします。

○閉 会

議事録署名

林 委員 _____

秋山委員 _____